

和名倉百年の森

wanagura hyakunen no mori

NPO 法人百年の森づくりの会

2018
4.1

35号

巻頭言……………1 / エコサロン公開講座 秩父の成り立ちを知ろう……………2-9

和名倉山森づくり報告……………10-11 / 年間スケジュール……………裏表紙

秩父鉾山の特別展

理事長 小林 公彦

昨年暮れに埼玉県立自然の博物館の井上素子主任学芸員をお招きして、「秩父の成り立ちを知ろう」というテーマで講演をいただきました。その時に当博物館で「秩父鉾山の特別展」を開催しているとお話がありました。昔秩父鉾山の現地を訪れたこともあり、懐かしく思い特別展を拝見してきました。

日本の近世・近代を支えた産業に、秩父地域では「礬山」と言われるほどの木材産業、石灰石に代表する鉱物産業、そして礬を作り絹織物の繊維産業などがあります。

武甲山の石灰岩の採石は有名で、誰もが知っていますが、埼玉県最西端に秩父鉾山として立派な鉾山があったことを私が知ったのは、恥ずかしながら百年の森づくりの会で植林活動してからでした。

百年の森づくりの会は、2003年4月埼玉県最西端にある中津川山吹沢の県有林2.2haに植林活動を実施し、約2700本植栽しました。現在は秩父に本拠地を持ち、活動している「秩父百年の森」に委託しておりますが、その当時、山吹沢の近くに鉾山があることを知ったのです。

2006年に秩父鉾山を見たいと思います、現地を訪問してビックリしました。廃墟と化した町なみが残っていたので

す。学校や郵便局、集会場や共同浴場、そして従業員やその家族が住んでいた住宅などの建物が、当時の面影を残したまま現存しているのです。最盛期には従業員八百人、約2400人の人口があったそうです。秩父鉾山は昭和53年に金属採掘の生産を中止しましたが、今でも小規模ながら石灰岩の採掘は続いているそうです。訪問した当時は数件住んでいると伺っていましたが、今は無住の地となっているようです。

公開講座の時に、井上素子さんから秩父鉾山の特徵についてお話がありました。地下深くから貫入してきたマグマが、主に石灰岩に接触することによって形成された鉾床をスカルン鉾床と言い、秩父鉾山はその生成過程で複雑な変質・変成作用を受けたことから、金・鉄・銅・亜鉛など多種にわたる金属鉱石を産出していました。142種の鉱物を産出する日本でも特異な鉾山で今でも研究者の注目を集めているそうです。

今回の特別展では、112種の鉱物を展示していただきました。特別展のために3年かけてこれだけ多くの種類の秩父鉾山産鉱物標本を集めたそうで、大変貴重なものを見せさせていただきました。山登りをした時にはお花畑で数々の種類の花を見つけては楽しんでいますが、今回11

2種類の鉱物のきらめきをみて、まるでお花畑の花々を見ているような気がいたしました。

また、今回の特別展では鉱物の展示や鉱物の成り立ちのほか石綿を求めて秩父にやってきた平賀源内のことや一攫千金を求めて秩父鉾山を訪れた人々の歴史の展示、そして昭和53年の生産中止まで暮らしていた鉾山町の暮らしの様子などの展示もあり、秩父鉾山の全容が理解出来、大変興味深い展示でした。

百年の森づくりの会では、ここ数年総会記念講演会や公開講座において、「秩父地域を知ろう」というテーマで講演会を開催しています。秩父地域の民俗や伝統行事、秩父の地形や地質などいろいろな角度から勉強を続けております。今回の特別展を拝見して秩父地域には森や木材に関わる人々の暮らしの他、鉾山に関わる暮らしもあり、自然と産業と人の関わり合いの深いことを改めて感じることができました。

百年の森づくりの会は、森づくりをコンセプトに色々な方々のご協力をいただきながら活動が続いております。これからも地域や人との触れ合いを大切にしながら、森づくりの必要性を啓蒙できればと思っております。

エコサロン公開講座（平成二十九年十二月十六日）

秩父の成り立ちを知ろう

―和名倉山・長瀬宝登山そして荒川―

講師

埼玉県立自然の博物館 主任学芸員

井上 素子

ブラタモリを見て今回呼んで頂いたということなので、それを前提に話をさせて頂きます。ブラタモリは、大宮編をつくるのが先に決まっています、もう一編秩父で撮るので相談に乗って下さいというのが初めての電話でした。2月のことです。その後、ディレクターを長瀬に案内しましたら、非常に気に入って下さり、それで秩父編・長瀬編2本を撮ることになりました。

ブラタモリは2か月間準備をして五月に秩父編・長瀬編の2本分収録しました。秩父編は曇り後雨で、残念ながら武甲山は良く見えませんでした。撮影2日目は長瀬で、快晴に恵まれ、ドローンを飛ばして、とても良い映像が撮れたとスタッフは喜んでいました。3日目が大宮でした。本番は撮りっぱなしで、やり直しは一切なし。私が「初めまして」と挨拶している時が、本当にタモリさんとの初対面です。タモリさんは地質学の知識が深くて好奇心にあふ

れており、隙があると質問をしてくれます。ですから、ディレクターは、ネタがタモリさんにバレてしまうというところで、本番撮影中にしか話させてくれませんでした。

タモリさんはかなりの地質学通で、石の話で盛り上がってしまうと、一般の方がついていけない専門用語が多くなりすぎて、かえってカ

ットされてしまいました。秩父・長瀬を楽しみにされていて、始終ご機嫌で、最後にも楽しかったといってくださいました。私も改めて秩父地域のもっている素材の素晴らしさを再確認しました。そのあたりもご紹介できたらと思います

ます。

私は今回の収録で多くのことを学ばせてもらいました。地質学の敷居が高いことは日々実感しています。が、学芸員としてもっともっと身近に分かりやすく、多くの方々に、地質学の面白さを伝えることに努めな

ければ、と思いました。埼玉県の地質がどうなっているのか、基本的なことをお分かりいただければ、色々な事を更に楽しめることができると思いますので、今日はみなさんに秩父の大地の成り立ちについてお話をさせていただきます。



（図1）「日本地質学発祥の地」の碑

【日本地質学発祥の地】(図1参照)

秩父地域は「日本地質学発祥の地」といわれています。近江アナが長瀬編の最後のところで「ブラタモリ発祥の地といっても良いかもしれませんね」と提案し、タモリさんが「いいでしょう」とお墨付きをくれました。

何故、秩父が日本地質学発祥の地なのでしょう。日本の地質学は明治時代はじまります。東京帝国大学の初代地質学教授としてドイツのナウマン教授が雇われ、日本全国の地質調査を手掛けました。その時いち早く秩父を訪れています。その教えを受けた小藤文次郎氏は卒業論文で秩父長瀬下仁田地域にかけて調査し、日本列島の基本構造を明らかにしています。このように秩父地域は日本列島の構造を理解する上で先駆的な研究がなされたところなのです。当館の前に「日本地質学発祥の地の碑」が建っているのは、博物館の歴史とも関わりが深いからです。大正10年、秩父鉄道が長瀬を訪れる人々に岩石標本を見せる施設としてこの地に「秩父礦物植物標本陳列所」を設立しました。今の国立博物

館が「東京博物館」として上野に建てられたのより前のことです。当時は博物館法というのありません。しかも民間の鉄道が建てたことに意義があります。ここに秩父鉱物植物標本陳列所の目録をコピーしたものをお持ちしました。これは大変貴重なものです。戦後秩父鉱山を研究し、陳列所との関わりが深かった東京教育大の宮沢俊弥教授のご遺族から戴いたものです。それを番組最後のところでタモリさんに見せたところ、非常にマニアックな場所ばかり紹介しているので、大変喜んでいました。番組では秩父鉄道が観光客を呼ぶためにつくったと紹介していますが、実はそうではなく、当時地質学を研究したり、学んだりする人たちが沢山来るところでしたから、そういう方々の為にコースガイドや標本を用意したのです。そのコースガイドは、今我々が秩父や長瀬を紹介する場所とほとんど変わっていません。

戦後の昭和24年、荒廃していた標本陳列所が、東京教育大学教授藤本治義教授らの尽力により復興し、「秩父自然科学博物館」として再興

しました。各分野の蒼々たる学者が集まり奥秩父総合調査を実施した上で設立されました。この博物館は自然系博物館として国立博物館を除いて全国的に見ても1位・2位を争う早さで出来たものです。

博物館の歴史が古いという事は標本もその当時のものが残っているという事です。市民が見つけた化石などが博物館に残るのです。もし博物館がなければ、貴重な化石でも、ご本人がお亡くなりになると価値が分からなくなり、どこかにいってしまっていたでしょう。秩父地域は海棲哺乳類化石が豊富です。平成28年に、これらの化石と露頭（地層が見える崖）が国の天然記念物と一括して指定を受けました。化石が採集された時代が自然科学博物館の時代のものもあり、古くから博物館活動が盛んであったおかげでもあると思っています。このような土地柄が評価され、秩父地域は「日本ジオパーク」にも認定されています。

【秩父の山はどんな岩石で出来ているのか】(図2参照)

秩父の山が、どんな岩石からでき

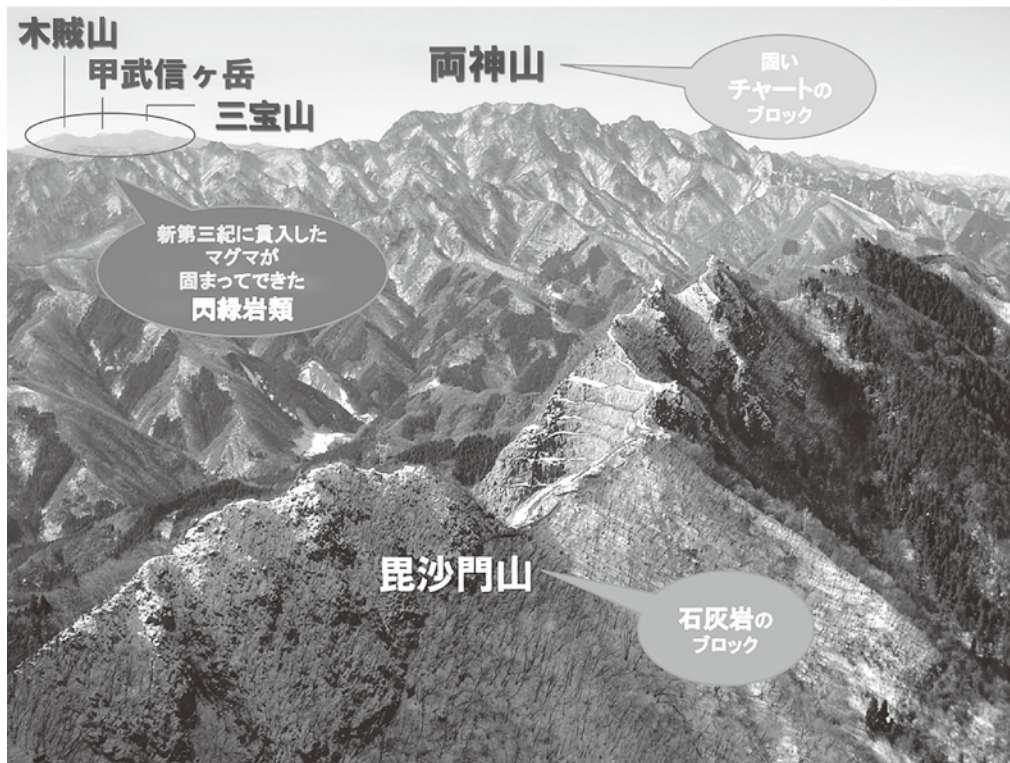
ているのかご紹介したいと思っています。武甲山は石灰岩の大きな岩体であるというのは皆さんもよくご存じだろうと思います。空撮でおもしろい写真があります。毘沙門山が手前にあってその奥に両神山があり、その奥に甲武信ヶ岳・三宝山・木賊山の三つの山が並んでいる写真です。それぞれ異なる岩石から出来ているため異なった形をしています。一番奥の甲武信ヶ岳はマグマが地下深くで固まって出来たものです。のっぺりとしていてどこが山頂かわかりにくいですね。毘沙門山は武甲山と同じ石灰岩のブロックです。石灰岩の山は、非常に切り立ち、ロッククライミングの名所になっているようなところが多くあります。両神山はチャート（ヤート）の大きなブロックです。チャートは硬いので浸食されずに残ったということです。

【埼玉の大地の基本構造】(図3参照)

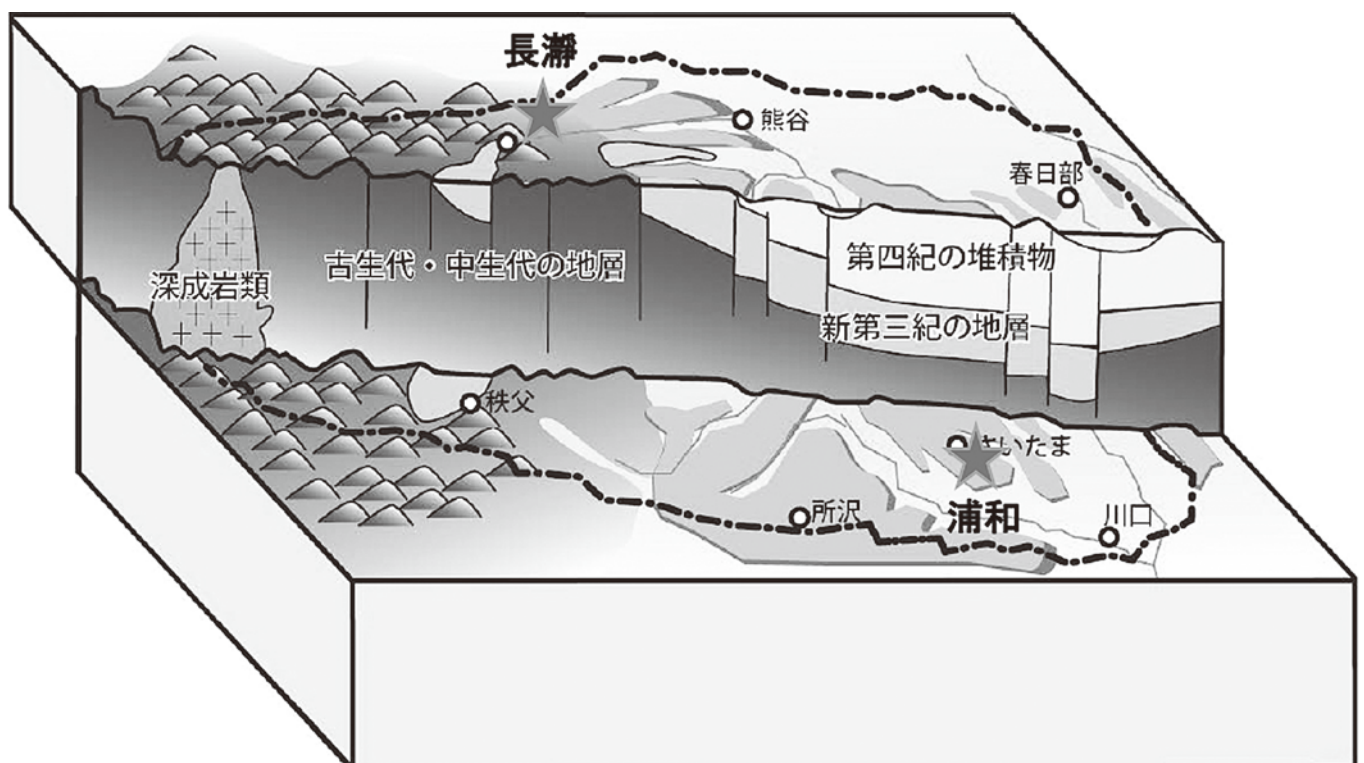
埼玉県を東西に切った断面図を御覧ください。西側の関東山地の部分は、日本列島の土台となっている岩石でできています。秩父盆地や関東平野はその土台の上に、新しい時代の地層が乗っている状態です。カレ

ーライスで例えると、お皿が基盤の岩石です。その上にライスが乗っています。ライスは半分岩石になっているような固さの岩石で、秩父盆地や丘陵をつくっている岩石がこれに当たります。この部分から、海の生き物の化石がたくさん産出します。そして関東平野では、ライスの上に厚くカレーがかかっています。水を含んでドロドロです。液状化も起こるし、地下水で水を抜くと地盤沈下も起こります。カレーライスの部分を除いてみますと、関東平野の基盤は利根川沿い深度が最大約6000mあります。富士山2個分です。奥秩父の山々は標高2500mぐらいです。ので、深度を加えると約8500mあるという事です。それぐらいお皿の上に

たくさんのカレーライスのっているということ。春日部で約3000m、浦和は比較的浅いところにあります。関東平野ではこれほど地下深くにある岩石が、秩父では顔を出しているのです。



(図2) 昆沙門山上空から両神山、甲武信ヶ岳方面を望む



(図3) 埼玉の大地と地下地質 原図:『埼玉の自然をたずねて』 築地書館

【付加体のでき方】(図4参照)

基盤の岩石に注目してみましょう。

日本列島の基盤は「付加体」で出来ています。帯状の構造になっていて、秩父山地では北西―南東方向に、秩父帯・三波川帯・四万十帯の三つの帯が並んでいます。長瀬付近は三波川帯、武甲山・両神山あたりが秩父帯、甲武信ヶ岳・和名倉山の一带は四万十帯となっています。それぞれ特徴があり、地形に反映されています。札幌二十八番の石灰岩体のところで、「付加体」の説明を私がする予定でしたが、タモリさんは大喜びで、自ら説明していました。

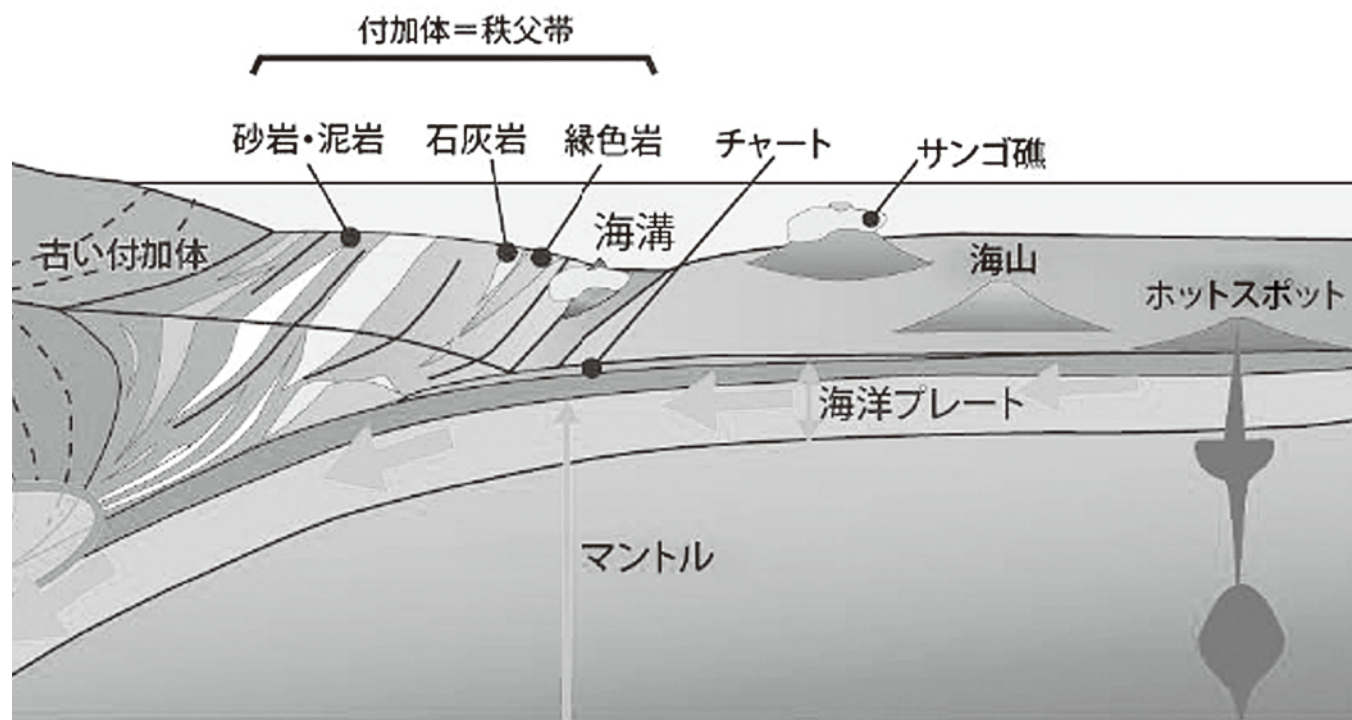
「付加体」とはなんでしょうか。大陸プレートに海洋プレートが潜り込む時に地震が発生するということは、みなさんよくご存じなのではないでしょうか。このようなところのできるのが「付加体」です。海洋プレートが運んできたものが、大陸から流れてきた砂や泥と共にごちゃ混ぜになって、大陸プレート側に押し付けられるのです。

海洋プレートが運んでくるものに海底火山があります。地下深くから常に熱いマグマが上がってくるところがあり、ハワイがその典型的な場

所なのですが、そういうところには巨大な海底火山ができます。マグマが上がってくるところは同じなのに、海洋プレートが動くので火山列になります。火山体は緑色岩という岩石になります。火山体が成長すると、暖かい海なのでサンゴ礁ができ、これが石灰岩になります。チャートというのは深海底に沈んだ放散虫などの微生物の遺骸です。

石灰岩もチャートも緑色片岩も、できた時代はバラバラです。日本の地質学者は本当に偉いと思います。複雑な地層の構造を調べ、一つ一つの岩石の年代を明らかにして、その成因を先に紹介したようなプレートテクトニクス理論で説明できたのは、1970年代のことです。それまでは秩父の山をつくる岩石を秩父古生層と言っていました。古生代と中生代の岩石が一緒になってごちゃごちゃになっていることが分かり、今は中古生層といっています。

このように、秩父の山は付加体の岩石からできていますが、甲武信ヶ岳は別で、新生代に上昇してきたマグマが地下深くで固まった石英閃緑岩でできています。



(図4) 付加体概念図

〔石灰岩の山 武甲山〕(図5参照)

武甲山の断面図を見ると石灰岩の下に緑色岩があります。先ほど説明したハワイの火山体の上にサンゴ礁ができたのと同じ形です。元の山頂は1336mでしたが削られて今は1304mになっています。博物館の常設展示を1月に変えますが、旧山頂で採った石灰岩とその直下に出してきた二枚貝の化石を展示します。この化石は武甲山のできた年代を決める決め手になったものです。是非ご覧になってください。石灰岩は、遠慮して北側だけ掘っているわけではなく北側にしかありません。全部が石灰岩だと武甲山はなくなっていたかも知れません。群馬県の叶山の山頂は全部なくなっています。

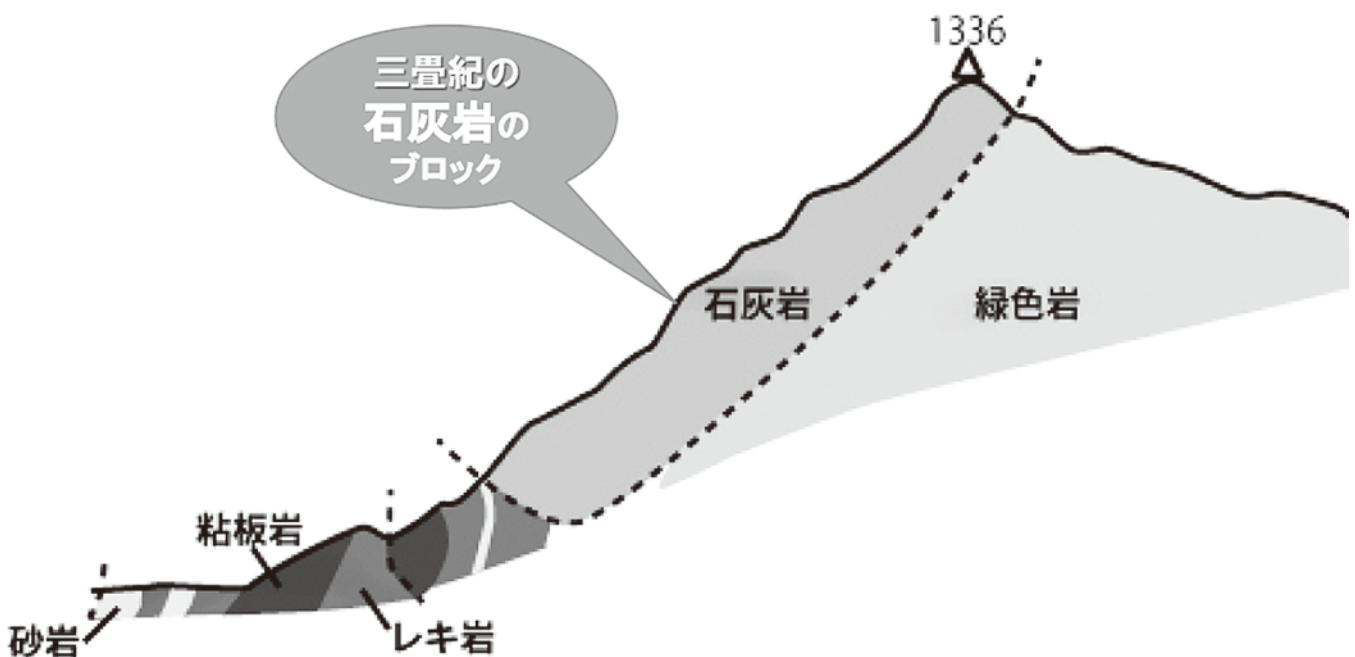
札所二十八番にある石灰岩の大岩壁をプラタモリで紹介しました。火山体の部分だけ無くなって石灰岩だけ残るのでこのような岩壁になっています。石灰岩は酸性の水に融けるので柔らかいイメージがあるのですが、案外浸食に強く崖として残ります。割れ目が出来ても石灰岩が融けた水で補うこととなり、自分で自分を治すことが出来るからでしょうか。札所二十八番には、「橋立鍾乳洞」があります。割れ目に沿ってできた

縦穴型の鍾乳洞です。小規模ですが冒険気分を味わえます。

〔チャートの山 両神山〕

近江アナが良く知っているチャートです。放散虫、固い、二酸化ケイ素がキーワードです。両神山は大きなチャートの岩体です。付加体にはたくさんチャートの岩体が挟まっていますが、両神山の部分は特に厚いチャートです。チャートは非常に固いので浸食に耐えて台形の山になっています。熊谷方面からみても両神山はドーンと存在感があります。放散虫を顕微鏡で見るとものすごく綺麗でガラス細工のような化石です。チャートから放散虫を探し出し、その種類から年代を調べることができます。

海には他にも沢山の物質があるので、二酸化ケイ素だけが降り積もってできるのは何故かというのと、海の中では他の物質は融けてしまっていますが、二酸化ケイ素は非常に安定しているため融けずに残るのです。チャートには色んな色がありますが、主成分はガラスや水晶と同じ二酸化ケイ素なので、本来無色透明です。そこに鉄が含まれると赤とか緑、マンガンが含まれるとオレンジ色、有機物を含むと黒くなります。



(図5) 武甲山南北断面図 原図：藤本ほか(1975)

7

【四万十帯の山 和名倉山】(図6・7 参照)

和名倉山はどうかでしょうか。和名倉山は山深く、とにかく人を寄せ付けないというイメージがあります。地図を見ても和名倉は大きく格好いいですね。和名倉山のポイントは四万十帯の山であるということです。秩父帯より新しい時代の付加体です。秩父帯はジュラ紀のもので、主には次の白亜紀以降にできたものが四万十帯となります。偶然ヘリコプターで空撮することが出来たので、地図と照らし合わせて地名を入れて見ました。ちよつと時間がかかりましたが、作成して大面白かったことに気が付きました。秩父帯と四万十帯の境は三峰神社あたりです。四万十帯はさらにユニットに分かれています。和名倉山の主体部である八百谷・雲取山ユニットと他のユニットと浸食のされ方と違うようです。

八百谷・雲取山ユニットは砂岩、泥岩が主体ですが、そこにチャートと緑色岩がレンズ状にたくさん挟まっています。そしてそれらがすべて北西―南東方向にならんでいます。この方向は、関東山地の付加体の方向性と一致しています。仁田小屋か

ら仁田小屋の頭を結ぶラインや、松葉沢の谷の方向が、これに当たりますので、仁田小屋に今度行った時に、確認してみてください。日本列島の基盤構造の方向性を感じていただけるのではないかと思います。この八百谷・雲取山ユニットは他のユニットより硬いようで、その結果和名倉山として残ったのではないのでしょうか。本来なら、東京都との県境の稜線の山が一番高く、川は低い方へ削っていくので、和名倉山の独立峰にはならないのですが、八百谷ユニットの固い部分が邪魔して、山頂として残ったのではないかと思います。



【結晶片岩の溪谷 長瀬】

和名倉山は四万十帯、武甲山と両神山は秩父帯で、宝登山、長瀬は三波川帯に当たります。三波川帯は特殊で、付加体がさらに海洋プレートと一緒に引き込まれて地下深く押し込まれた岩石です。その深さは約20〜30km、富士山でいうと7、8個分です。それぐらい地下深部まで押し込まないと出来ない石です。四万十帯などの付加体の岩石が、一度地下深くまで押し込まれて、またそれが上昇してきた岩石が長瀬の結晶片岩なのです。

秩父編の撮影の際、タモリさんが「ここは何帯ですか?」と聞くので、「ここは秩父帯で、明日の長瀬は三波川帯です。」と告げると、「明日は三波川帯ですか!」と言つてとても楽しみにしていました。番組冒頭のライン下りの出発点近くに「紅簾石片岩」という岩があり、タモリさんが「これを見に行かないの?」といったため急遽撮影することになりました。地質学では非常に有名な岩ですが、まさかご存知とは思わず驚きました。そして足元の河原の石の名も次々に言い当てていました。タモリさんは子供の頃から石好きで、河原の石を拾い集めていたそうです。タモリさんは福岡出身なので三波川

帯はありません。「結晶片岩は拾えなかったでしょう?」と聞くと、「拾えなかった!」と嬉しそうでした。タモリさんが一番気になっているのは、どうして結晶片岩が上がって来たのかということです。その辺りは、定説がなく、とても難しい地質学上の課題なので、ともに出演した産業技術総合研究所の高橋雅紀氏が撮影の合間に説明されていました。

岩畳のような景観ができるのは、いろんな要因が重なったことです。まずは、結晶片岩で出来ているということ。結晶片岩は薄くはがれやすいパイのような構造をしています。これが水平な面をつくります。さらに節理という非常に直線的な多数の割れ目が走っています。そのため垂直に切り立った断崖絶壁になります。普通はV字谷になります。

さらに岩畳では、岩盤がむき出しになっています。川沿いにある河岸段丘は、もともと河原だったところなので、普通は河原の砂礫が載っていますが、岩畳にはそれがありません。常に洪水にあつて砂礫も流されてしまい、基盤の結晶片岩が出てきます。そうでなければ、草木があつという間に生えて、岩盤は見えなくなってしまう。



(図8) 宝登山空撮

【御荷鉾緑色岩の山 宝登山】(図8参照)

和名倉山は巨大な山体でどっしり構えているのに比べて宝登山はポコッとしている山です。宝登山は三波川帯の地質です。結晶片岩ほど潜り込まなかったので硬い緑色岩類の岩体として残った山です。蓑山や群馬の御荷鉾山もそうです。結晶片岩だと節理と片理があるので直ぐに浸食されて高い山にはなりません。緑色岩は削り残されて山になります。それが宝登山です。

最後に、ブラタモリでカットされた蛇紋岩の話を紹介します。宝登山麓の川沿いには蛇紋岩体があります。聞きなれない名前の岩石だと思いますが、タモリさんに見せたら一目で言い当てました。蛇紋岩は含水鉱物で、もろくて崩れやすい性質があり、地滑りを起こします。このことが鉄道のルートと密接に関係しました。鉄道を長瀬から秩父へ延長する際、そのまま左岸側を通す予定でしたが、蛇紋岩があるため難工事となり、ルート変更をせざるを得なかったのです。蛇紋岩体の手前で橋をかけて荒川をわたすこととなりました。この時できたのが、今はSLの撮影ポイントとなっている荒川橋梁

です。荒川橋梁はレンガづくりで、上流の水流が当たる部分だけ花崗岩が使われています。デザイン性にもすぐれ、現役で110年も使われる素晴らしい橋だと思います。蛇紋岩地滑りがもう一つの観光名所を生んだ…というのがシナリオだったので…。

以上で私の話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

(文責事務局)



2017年度下半期

和名倉山森づくり報告

和名倉山森づくり事業担当 高岡正彦

和名倉山は、64年（昭和39年）と69年（昭和44年）に山火事が発生し、多くの樹木を焼失した。その跡には成長の速いカラマツを植林するなど、山の復興が図られた。同時期、林業の衰退で山での仕事も少なくなり往来が激減し、多くのルートが2m以上のスズタケで覆われ藪の山となってしまった。

そのような和名倉山を以前のような水を育む山に還元するために、97年埼玉大学ワンダーフォーゲル部OB会が活動を始めた。その後、NPO法人百年の森づくりの会として事業を拡大して、00年までに失われた道の復元を行ない、01年には樹木の生長が遅いところに、和名倉山の在来種であるブナの苗を植林し始めた。植林を始めると、鹿による食害に悩まされ、植林よりも、現有樹木を守るほうが先と考え、現在は現有樹木に鹿よけネット巻く作業が主になっている。03年には旧大滝村村有林の管理小屋だった仁田小屋を改修しこの事業のベースキャンプとして使用している。この小屋は会員の力でログハウス風に作り上げられた。（なお、和名倉山は山頂が県界でない埼玉県山々における最高峰である。）

2017年度上半期

5月27・28日 第40回植林ワーク
（仁田小屋整備・植林地整備）



11月27・28日 第41回植林ワーク

年度当初は10月21・22日で予定していたがかなりの悪天が予報されていたので1か月順延にした。



もう20年ほどこの事業を積み重ねてきたが、大きな事故もなく進めてこられたことは、とても誇らしいことである。今後も安全第一で事業を



することを再確認して、順延を決めた。結果、参加者は8名になった。雲取林道（大洞林道）では杉の切り出しを行っていた。林業が好転したのではなく、補助金等行政上の緩和策が決まったせいらしい。

今回のワーク（和名倉山での一連作業のこと）では、現在我が会が保有しているブナの苗約200本の植林地を偵察することが第一の目的である。

まずは、林道の終点付近が第一候補である。ここまで、落石が頻繁にある林道を使うことになるが、それでも林道沿いである。十分な注意が必要だが重機が使える。標高は1070m。ブナは800〜1000mに自生することから、地球の温暖化

のことを考えると、まあ適した高さだと考えられる。また、南向きの斜面なので、成長の加速が期待できる。ただ、現在、市から借り受けている土地とは離れている土地なので申請が必要である。

第二候補は、松葉沢の頭のさらに上部にあたる1780m付近の広い土地である。ここは、和名倉山の腹にあたるのだが、少々高すぎると思われる。仁田小屋尾根上の1400m付近にブナ林があるので和名倉山ではかなりの標高までブナに覆われていたとは考えられるが…。また、荷揚げの作業にかなりの労力が必要である。さらに管理（鹿除けネットの設置、修理）にも人手が必要である。

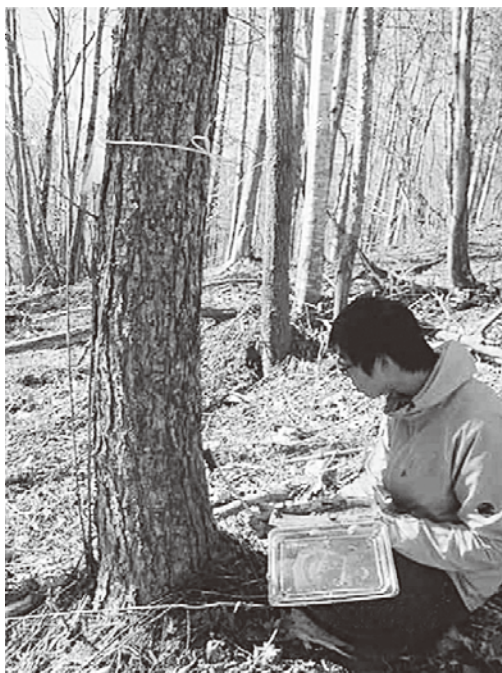
第三候補は、和名倉山ではないが、向かいの三峰神社内の土地を借りる案である。標高は約1000m。以前に60本のブナを植えさせてもらった経緯がある。ここならば、運搬、植林、管理とも見通しが立つ。

いずれにせよ、大きな事業になる。準備を怠らず、関係機関にも深く相談して行く必要がある。我々は、和名倉山に向き合って20年が過ぎようとしているが、いまだに活動が軌道に乗ったとは言えない。もともとそ

んな生易しいものではないが、それでも、たくさんさんの賛同を得ながら、たくさんさんの協力人を集め、できる限りの事業を行ってきた。かなりの人、機関に影響を与えてきたと自負している。「母なる山への恩返し」という活動は、絶対に絶やしてはいけないと思っています。

また、今回のワークでは、「鹿忌避剤塗付」という作業を行った。私の勤めるいずみ高校は生物環境系高校である。そこでの同僚教員である農業科の教師の伝手で、「鹿忌避剤」を試薬として譲ってもらった。今回は1450m付近で、2、3本鹿に傷つけられた木の周辺の広葉樹に塗付

けてみた。本来は散布するようだが、雨雪で効果が留まらないのではと考え、塗付けることにした。試薬はわずかで、次にここに来られるのが3、4か月後なので効果を分析しきれないが、一つの試みとして行った。





2018年 活動スケジュール

活動への参加をご希望の方は、事前に事務局まで御連絡ください。

	総会・理事会	フィールド活動		苗づくり	エコサロン他
		和名倉	宝登山/大陽寺		
4月	■会報35号発行 ○4/15(日)常務理事会	◆第42回和名倉山ワーク 日時:3/31(土)~4/1(日) 集合:8:30/西武秩父駅	◆宝登山 下刈作業 日時:4月15日(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場		
5月	●5/21(月)理事会 場所:未定		◆宝登山 下刈作業 日時:5月13日(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場		
6月	■第11回通常総会・記念講演会 日時:6/3(日)午後2時から 場所:埼玉教育会館 13:30 開場 14:00~14:50 第11回通常総会 15:00~16:30 記念講演会 16:45~18:30 懇親会 ○6/10(日)常務理事会	◆第43回和名倉山ワーク 日時:6/16(土)~6/17(日) 集合:8:30/西武秩父駅	◆宝登山下刈作業 日時:6/10(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場		
7月					◎福島県田村市植林状況調査 日時:7/1(日) 行程:未定
8月	○8/19(日)常務理事会		◆宝登山下刈作業 日時:8/19(日) 集合:9:00/宝登山 ロープウェイ駅前広場		
9月					
10月	■会報36号発行 ○10/15(月)常務理事会	◆第44回和名倉山ワーク 日時:10/27(土)~28(日) 集合:8:30/西武秩父駅			
11月	●11/19(月)理事会 場所:未定				◆公開講座 日時:11/11(日) 会場:未定
12月	○12/17(月)常務理事会				

和名倉百年の森 第35号 2018年4月1日発行

発行者: NPO法人百年の森づくりの会 小林公彦

NPO法人百年の森づくりの会 事務局

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9階

さいたま市市民活動サポートセンター内 メールボックスA-71

TEL/FAX: 0480-22-3131

<http://www.100nen-forest.org> e-mail: info@100nen-forest.org